



男女共同参画社会を実現するための推進機関
独立行政法人 国立女性教育会館

2017
概要

NATIONAL WOMEN'S EDUCATION CENTER



今年が開館40周年 これからも男女共同参画社会の実現を目指します



独立行政法人 国立女性教育会館
理事長 内海房子

国立女性教育会館(NWEC)は、国立としては唯一の、成人女性のための社会教育施設として1977年に設立されました。独立行政法人となった2001年以降は、女性教育に関するナショナルセンターとして、人材の育成・研修の実施や女性教育に関する調査研究の成果及び会館に集積された情報の提供を通じ、国、地方自治体、男女共同参画センターや大学、企業、女性団体等と連携を図りながら男女共同参画社会の実現のための推進機関としての役割を果たしてまいりました。そして、今年開館40周年を迎えます。

この40年間、男女共同参画を推進する多くのリーダーが育ち、様々な地域問題の解決に取り組むとともに、全国の女性たちとのネットワークを構築し、ともに学習プログラムを開発し、関連する貴重な記録やデータを蓄積することで、男女共同参画社会の実現を図ってまいりました。

しかしながら、政策・意思決定過程への女性の参画や、女性に対する暴力、男性の育児・家事への参加、非正規労働の処遇や長時間労働など課題が山積しており、我が国の男女共同参画社会の実現は未だ道半ばにあると言えます。

こうした状況を踏まえ、2015年に策定された「第4次男女共同参画基本計画」と第4期中期目標・中期計画に基づき、NWECはさらに男女共同参画の推進機関としての役割を果たすべく、今後もより積極的に充実・深化した事業の展開に取り組む所存です。

引き続き皆様のご指導、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

目次	目的	2
	沿革	3
	事業	4
	女性教育情報センター	5
	女性情報ポータル“Winet”(ウィネット)	6
	利用状況	7
	トピックス	8
	施設	11
	組織・決算	14



40周年記念ロゴマーク

NWECの豊かな自然と男女共同参画推進機関としての協調性や調和をデザインしています。また40周年にふさわしいゴールドでanniversaryを描くことで、NWECと男女共同参画社会の光り輝く未来を表現しています。

目的

独立行政法人国立女性教育会館(NWEC)は、女性教育指導者及び女性教育関係者に対する研修、女性教育に関する専門的な調査及び研究等を行うことにより、女性教育の振興を図り、もって男女共同参画社会の形成の促進に資することを目的としている(独立行政法人国立女性教育会館法第3条)。

NWECは、その目的を達成するために文部科学大臣より示されている第4期中期目標に基づき、「研修」「調査研究」「広報・情報発信」「国際貢献」の4つを有機的に連携させつつ各事業を実施している。



沿革

- | | |
|-----------|---|
| 昭和52年 7月 | 文部省の附属機関として
国立婦人教育会館が設置される |
| 昭和52年 11月 | 開館式 |
| 昭和54年 11月 | 情報図書館開室(昭和62年11月から
「婦人教育情報センター」
平成13年1月から
「女性教育情報センター」と改称) |
| 昭和57年 6月 | 皇太子殿下・同妃殿下行啓 |
| 昭和62年 5月 | 利用者100万人を超える |
| 平成 6年 4月 | 「国立婦人教育会館将来構想検討委員会」が
「国立婦人教育会館の将来について」を報告 |
| 平成 8年 11月 | 利用者200万人を超える |
| 平成 9年 1月 | 愛称を「ヌエック」に決定 |
| 平成13年 1月 | 名称を「国立女性教育会館」に改称 |
| 平成13年 4月 | 独立行政法人化 |
| 平成18年 4月 | 女性情報ポータル
“Winet”(ウィネット)公開 |
| 平成18年 6月 | 利用者300万人を超える |
| 平成20年 6月 | 女性アーカイブセンター開設 |
| 平成22年 11月 | 研修棟、宿泊棟等の改修工事 |
| 平成24年 8月 | 「国立女性教育会館の在り方に関する
検討会」が報告書を公表 |
| 平成25年 9月 | 利用者400万人を超える |
| 平成27年 7月 | PFI(プライベート・ファイナンス・イニシアティブ)
制度導入 |



開館式で挨拶をする福田赳夫首相(当時)



皇太子殿下・同妃殿下行啓(当時)



女性アーカイブセンター開設

事業

NWECは平成28年度から第4期中期目標・中期計画期間(平成28年4月～平成33年3月)に入った。

NWECは女性教育にとどまらず、幅広く男性、若年層、大学や企業等を対象とした男女共同参画に係る事業を展開し、第4次男女共同参画基本計画等で示された政府の政策に沿って、研修、調査研究、広報・情報発信、国際貢献を推進・実施する。

これまでに蓄積した様々な資源を活用し、女性の活躍をより一層推進するため、地方自治体、企業や大学を始めとする教育機関等との連携・ネットワークをさらに充実させ、より多様な主体に対する積極的な広報・情報発信を行い、社会に対してアプローチすることで、男女共同参画社会の実現を目指す。

平成29年度事業

研修事業

- (1)女性活躍推進のためのリーダーの育成
 - 地域における男女共同参画推進リーダー研修
＜女性関連施設・地方自治体・団体＞(6月)
 - 男女共同参画推進フォーラム(8月)
 - 企業を成長に導く女性活躍促進セミナー(10月)
 - 学習オーガナイザー養成研修(30年1月)
- (2)次代を担う女性人材の育成
 - 女子中高生夏の学校2017
～科学・技術・人との出会い～
(8月/科学技術振興機構受託事業)
 - 女子大学生キャリア形成セミナー(30年2月)
- (3)困難な状況に置かれている女性を支援するための人材の育成
 - 女性関連施設相談員研修(7月)
- (4)教育分野における女性参画拡大に向けた取組
 - 大学等における男女共同参画推進セミナー(11月～12月)

調査研究事業

- (1)男女共同参画統計に関する調査研究
- (2)男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査研究
- (3)女性教員の活躍推進に関する調査研究
- (4)eラーニングによる教育・学習支援に関する調査研究

国際貢献事業

- (1)アジア地域における男女共同参画推進のための人材育成
 - アジア地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー(10月)
- (2)国際的課題への対応
 - 課題別研修
アセアン諸国における人身取引対策協力促進
(10月～11月/国際協力機構受託事業)
 - NWECグローバルセミナー(12月)
 - 国際会議等で得た情報の発信

広報・情報発信事業

- (1)女性の活躍推進等に資する情報の一元化・発信
 - 情報資料の収集・整理・提供
 - ポータルとデータベースの整備充実
 - 図書のパッケージ貸出
 - 『NWEC実践研究』の発行
- (2)男女共同参画等に関する歴史的資料の収集・保存の推進
 - 女性アーカイブ機能の充実と全国の女性アーカイブとのネットワークの強化
 - アーカイブ保存修復研修(11月)
- (3)より多様な主体への積極的な広報活動の充実・強化
 - 広報活動の充実・強化

女性教育情報センター

<https://www.nwec.jp/facility/center.html>

情報サービス

閲覧 | 女性教育情報センター内で自由に閲覧できる。(NWEC本館2階)
開 室:9:00~17:00
休室日:日曜日、年末年始、会館休館日

貸 出 | 会館内貸出及び会館外貸出、女性センター・図書館等を通した館外貸出を行っている。

図書パッケージ貸出サービス | 大学や高校、女性関連施設、公共図書館を対象に、様々なテーマにあわせて図書をまとめて貸し出すサービスを行っている。

レファレンスサービス | 利用者の学習・調査・研究を援助するために、当センター所蔵の資料や各種データベースを活用して様々な質問に答えている。電話や文書、eメールでも受け付けている。

文献複写サービス | 所蔵資料について、文献複写サービスを行っている。電話やインターネット・文書による申込みも受け付けている。

展示の実施

所蔵資料の紹介を目的とする展示を行っている。

情報研修プログラムの提供

利用者の希望に応じて、資料・情報の検索・利用方法等の実技研修を随時行っている。



◇収集資料 (平成28年3月31日現在)

項目	和		洋		計		
	27年度新規受入れ	累計	27年度新規受入れ	累計	27年度新規受入れ	累計	
図書	図書	2,062	73,290	590	23,146	2,652	96,436
	地方行政資料	381	26,507	0	8	381	26,515
	計(冊数)	2,443	99,797	590	23,154	3,033	122,951
逐次刊行物	雑誌	810 中止3	3,144	85 中止1	763	895	3,907
	新聞	0	74	0	1	0	75
その他	新聞切り抜き	23,774	411,245	—	—	23,774	411,245
	オーディオビジュアル資料	18	244	0	0	18	244

女性情報ポータル“Winet” (ウィネット)

<http://winet.nwec.jp>

ウィネットは、女性の現状と課題を伝え、女性の地位向上と男女共同参画社会の形成を目指した情報の窓口である。



女性情報ナビゲーション
インターネット上の有用な資源への道案内

NWEC作成データベース

女性情報CASS
会館作成のデータベース及び他の関係機関のデータベースの横断検索

女性情報シソーラス
女性に関する情報を効率よく検索するための用語集で、Winetの各データベースへ組み込まれている。

女性情報レファレンス事例集
女性関連施設でよくある情報相談(レファレンス)を、Q&Aの形式でまとめた事例集。

女性のキャリア形成支援サイト
女性が様々な新しい分野へチャレンジし、キャリアを形成していくための多様な事例集(ロールモデル)。

海外女性情報専門データベース 館内で利用可能なデータベース

The Gerritsen Collection
オランダ最初の女性医師とその夫が収集した、女性に関する研究コレクション数千点の全文記事を収録。

GenderWatch
女性問題に関する学術雑誌のほか、新聞、ニュースレター、パンフレット、会議録など数十万件以上の全文記事を収録。

国立女性教育会館リポジトリ
会館の研究成果を永続的に蓄積・保存するデータベース。

◇国立女性教育会館作成の主なデータベース (件数は平成28年3月31日現在)

(女性教育情報センター)所蔵資料のデータベース	図書 (89,334件)	一般図書、中央省庁の調査や報告書、女性団体・グループ刊行の資料等を「女性情報シソーラス」に基づいたキーワードから検索できる。
	雑誌 (3,907件)	学術・教養雑誌、大学・研究所等の紀要類、地方自治体発行の男女共同参画広報誌、女性団体・グループが発行したミニコミ等を検索できる。
	地方行政資料 (21,714件)	地方自治体の男女共同参画担当課／教育委員会等が刊行した資料を「女性情報シソーラス」に基づいたキーワード等から検索できる。
	和雑誌記事 (69,690件)	所蔵雑誌から選定した男女共同参画、女性・家庭・家族に関する記事を「女性情報シソーラス」に基づいたキーワード等から検索できる。
	新聞記事インデックス (411,245件)	以下の新聞記事を見出し、記事中の人名、新聞名、日付、キーワードから検索できる。 [昭和52年10月～昭和63年]全国紙・地方紙約60紙に掲載され、話題となった女性(人材)に関する記事。 [平成元年度以降]全国紙・地方紙約45紙に掲載された男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する記事。
女性関連施設データベース (36,542件)	全国の女性／男女共同参画センター・働く婦人の家の概要、学習・研修事業、情報事業、相談事業について毎年調査した、各施設の現在の活動がわかるデータベース。	
国立大学における男女共同参画状況データベース (86大学)	国立大学協会『国立大学における男女共同参画推進の実施に関する第7回追跡調査報告書』の教員データ、男女共同参画室等の状況がわかるデータベース。	
女性と男性に関する統計データベース (551件)	女性及び男性の状況を把握する上で重要な日本の統計を、あらゆる分野にわたってとりあげたデータベース。統計表は、エクセル形式でダウンロードできる。	
男女共同参画人材情報データベース (826件)	男女共同参画社会推進のための事業企画、また施策の実施に参考となる会館の各種事業に協力された講師、委員等の人材情報データベース。	

利用状況

年度別利用状況（昭和52年度～平成27年度）

年 度	平成27年度			累計(昭和52年度～)		
	宿泊利用	日帰り利用	小 計	宿泊利用	日帰り利用	小 計
利用団体数	876	1,935	2,811	39,421	45,785	85,206
延利用者数(人)	65,288	56,036	121,324	2,943,247	1,364,852	4,308,099



女性教育情報センター年度別利用状況 (昭和54年度～平成27年度)

年 度		平成27年度	累計 (昭和54年度～)
資料等利用者総数(人)		8,138	81,944
貸出数	図書(冊)	8,157	111,853
	雑誌(冊)	623	33,183
	研修用貸出資料(冊)	98	41,921
レファレンスサービス(件)		560	38,296
文献複写サービス(件)		909	18,764
館外貸出サービス(件)		267	3,653



※資料等利用者総数は、平成18年度より集計

- レファレンスサービス 昭和56年度開始
- 文献複写サービス 昭和56年度開始
- 相互貸借サービス 平成4年度開始
- 図書パッケージ貸出サービス、個人貸出サービス 平成22年度開始

「男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査研究」実施

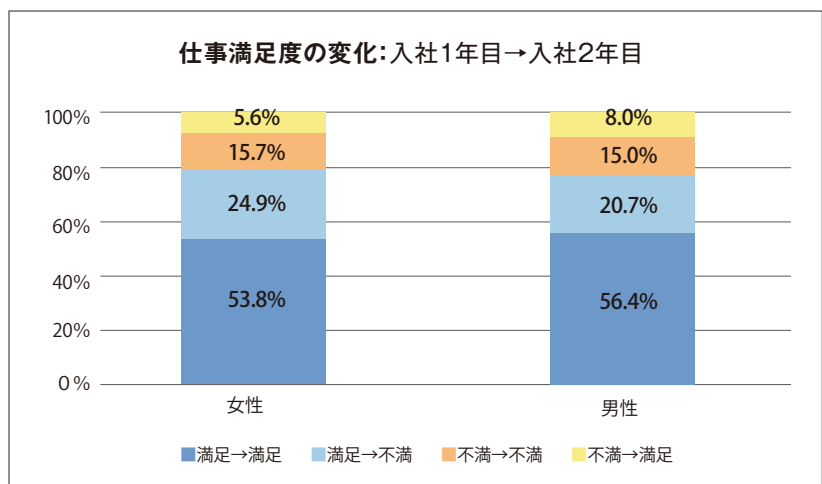
本調査研究は、平成27年に民間企業の正規職についての男女を5年間追跡するパネル調査研究である。

パネル調査とは、同一個人を追跡することで、その人の意識やおかれている環境などについて、複数時点で情報を収集する手法である。新規卒業者が直面する職場環境や人的資源投資は、その後のキャリア形成を左右するとして、「初期キャリア期(就職後まもない時期)」の重要性が注目されている。そこでこの調査手法によって、初期キャリア期のキャリア意識はどの程度変化するのか、またそれらの変化はどのような要因と関連して生じるのかを明らかにする。

平成27年10月に実施した第一回調査、平成28年10月に実施した第二回調査の結果によると、仕事満足度の変化にはあまり男女差がみられない。男女とも過半数が、入社1年目・2年目ともに「満足」と回答した。「満足」だったが「不満」に変化したのは、2割である。

一方、すでに入社1年目から、もしくは入社2年目になって、男女差が生じた項目もある。

詳しくは会館ホームページ(調査研究)へ。



「地域連携による女性活躍推進の実践 持続可能な地域づくりに活かす行政と民間のつながり」刊行

近年、持続可能な社会を維持していくための重要な政策課題として進められている女性の活躍推進の取組について、地域における様々な分野や機関の連携に着目し、現状と課題及び具体的な実践事例についてまとめ、3月に刊行した(発行 悠光堂)。



本書では、多様な分野で女性が参画する地域づくりに向けて、企業や経済団体がかわる取組だけでなく、女性の就労・再就労、起業、農業・漁業、大学生、防災など、様々なテーマについての実践事例を取り上げ、地方公共団体や男女共同参画センターなどのきめ細かな支援のプロセスや他機関との連携の工夫を丁寧に描いている。地域において男女共同参画の視点に立って女性活躍推進や地方創生、まちづくりなどの事業を進めていく上で活用されることを目指すものである。特に、「組織内や他機関と連携・協働することの意義や方法を知りたい」「男女共同参画推進に向けての留意点は何か」といった疑問に対して、実践に即した具体的な答えを得ることができるものとなっている。

詳しくは会館ホームページ(NWECとは/出版物・報告書)へ。



トピックス

6月 「女性関連施設相談員研修」開催

6月22日～24日に、社会の変化とともに複雑・多様化する男女の悩みに、男女共同参画の視点から、適切に対応できる相談員の育成と業務の質の向上を図ることを目的とした「女性関連施設相談員研修」を開催。全国各地の男女共同参画センター、配偶者暴力相談支援センター、民間団体、企業などにおいて男女の悩みに対応する相談員105名が参加。

3日間を通して、弁護士、県警本部、教育委員会、臨床心理士、男女共同参画センター長など、多彩な講師陣による講義や情報提供が展開された。参加者は、女性相談の意義と役割、法知識、トラウマ・ケア、組織運営と連携の仕組みづくりなど、相談業務の基盤についての理解を深めるとともに、SNSトラブルの実態と対応策、ストーカー事案防止のポイントなどの最新情報を学んだ。分科会では人間関係の悩みやDV被害などの課題を抱えた相談者への対応について、グループ討議や相談場面を想定したロールプレイなどの実践に即した内容と学習方法で理解を深めた。

参加者からは、「内容が常に悩みながら行っている支援内容に合っていた」「他の機関の参加者と交流を深めながら、今後の相談業務に生かせる知識や情報を得ることができた」などの感想が寄せられた。



1月～7月 「女性アーカイブセンター所蔵展示」開催

1月15日～7月24日の期間、女性アーカイブセンター展示室にて、所蔵展示「男女雇用機会均等法から30年」を開催した。

男女雇用機会均等法は、1985年制定、翌86年より施行された法律である。展示室では、制定のきっかけとなった日本や世界での出来事を年代順に追った展示パネル、働く女性を取り巻く世の中の変化を時代別に紹介した展示パネル「28歳の働く私」、制定後の世の中の動きや法改正に関連した図書・雑誌・新聞記事・写真などの所蔵資料、職員が作成した「男女雇用機会均等法すごろく」を展示し、性別によって差別されることのない職業生活の実現をめざして、人々が30年以上にわたって取り組んできた軌跡を紹介した。

展示終了後、パネルやすごろくは各地の男女共同参画関連施設において展示やイベントに活用され、NWECホームページからも多数ダウンロードされた。



8月 「男女共同参画推進フォーラム」開催



8月26日～28日に、「つなぐ、あらたな明日へ 一人ひとりが活躍できる社会を創る」をテーマとし、全国から1,000人以上の参加を得て「男女共同参画推進フォーラム」を開催。

1日目の特別講演「均等法から30年、あらたな明日へ～女性の活躍について考える～」では、赤松良子氏(公益財団法人日本ユニセフ協会会長、元労働省婦人局長)が均等法制定までの道程を振り返りながら、これからの女性の活躍に必要な視点について述べた。2日目のシンポジウムでは「男もつらいよ! 男性の働き方改革とワーク・ライフ・バランス再考」と題し、男女が共に働きやすく生活しやすい社会を創出するための議論が展開された。

NWEC提供ワークショップや女性講師による講談のほか、民間団体や大学を中心に公募した、男女共同参画の喫緊の課題、女性リーダー育成、DV被害者支援などをテーマとした約50件のワークショップやパネル展示など、多彩なプログラムを実施。各会場では活発な質疑応答や協議、グループ討議などが行われ、参加者同士の交流やネットワークづくりが進められ、熱気に包まれた3日間となった。

11月 「大学等における男女共同参画推進セミナー」開催



11月29日～30日に、「経営戦略としてのダイバーシティ&インクルージョン」をテーマとした「大学等における男女共同参画推進セミナー」を開催。全国の高等教育機関で男女共同参画に携わる80名を超える教職員が参加した。

1日目の基調鼎談では、3名の有識者から、学内の女性の活躍や働き方の改革が喫緊の課題であることや、男女共同参画推進を経営戦略の柱にすることが重要であることが強調された。また、パネルディスカッションでは、「女性も活躍できる職場風土を考える」をテーマとして、大学等の事務局で働く管理職あるいはその候補者である女性職員4名が、現状と今後の課題について議論し、会場

参加者と情報を共有した。2日目は、大学等における男女共同参画の主要な課題などについてグループ討議を進めるとともに、参加者同士のコミュニケーションを深め、ネットワークづくりを推進した。

参加者からは、「外を知ることは我が身を知ることにもなるので、この雰囲気を肌で感じることができ、具体的な取組や課題が聞けてよかった」「多くの有益な情報を得ることができ、いろいろな方とのネットワークができた」などの感想が寄せられた。

12月 「NWECグローバルセミナー」開催

12月2日に、「女性の活躍促進に向けた取組み～ヨーロッパの経験から考える～」をテーマとした「NWECグローバルセミナー」を開催。

第一部のキーラ・アベル氏(デンマーク王国子供・教育・男女共同参画省)による基調講演では、「デンマークにおけるジェンダー平等 一長く価値のある道のり」をテーマに、デンマークの女性の地位向上の歴史の変遷を踏まえ、北欧諸国で機会均等を確保するために必要な政治的原動力について報告がなされた。

第二部のパネルディスカッションでは、大崎麻子氏(NPO法人ジェンダー・アクション・プラットフォーム理事)をコーディネーターに迎え、「女性の活躍促進に向けた取組み～EUと日本の課題」をテーマに論議した。ポーランドで男女共同参画政策の立案に従事してきたモニカ・チェニウィックス氏(神戸女学院大学文学部英文学科客員専任講師)からは、ローマ条約、アムステルダム条約等を経てEU諸国でジェンダー主流化が達成されてきた経緯、池田心豪氏(労働政策研究・研修機構主任研究員)からは、仕事と家庭の両立について、男性の働き方変革の視点から日本の概況についての報告があった。

質疑応答では、男性の育児参加や長時間労働の抑制を欧州ではどのように実現してきたか等について活発な議論がかわされた。



12月 ホームページリニューアル

男女共同参画に関する情報提供をより充実させるためにホームページをリニューアルした。

平成28年12月にリニューアルオープンしたホームページでは、整理したサイト構成と見やすいデザインに基づいて、NWECの事業や他機関の情報等をわかりやすく紹介している。また、「個人・学生の方」「男女共同参画関連施設の方」など、ユーザーの所属別にお勧めのセミナーやページを紹介した「ターゲットリンク」欄を設けて、事業のPRを行っている。

リニューアルしたNWECホームページはこちら(<https://www.nwec.jp>)へ。



施設

<https://www.nwec.jp/facility/index.html>

秩父連山を遠くに望み、都幾川に沿った自然豊かな丘陵地にある施設は10ヘクタールの敷地内にある。自然との調和を配慮し、「陽に向かい陽に帰る」のコンセプトに合わせ、東側に研修棟、西側に宿泊棟、中央に池を配置している。

女性・男性を問わず、だれでも利用できます。男女共同参画または女性・家庭・家族に関する学習をする場合や、高校・大学が教育活動として利用する場合には、一般の利用者と比べ、安い料金で利用できます。



《施設のご利用》 株式会社ヌエックベストサポート

NWECでは、平成27年7月からPFI*を導入。(株)ヌエックベストサポート(NBS)に施設の全面的な管理・運営を委託し、利用者のサービス向上を図っている。最近では、旅行サイトからも利用予約が可能となるなど、利便性の向上につとめている。



〔主な取組〕

- ・宿泊室へのテレビ(A棟のみ)やアメニティの設置
- ・インターネット環境の整備
- ・中庭でのバーベキューや食堂での音楽会
- ・梱包紙ひも籠バックづくり(10月予定)
- ・パン・お菓子作りなどの料理プログラム
- ・星空観察会(11月予定)
- ・サッカースクール(毎週水曜日)
- ・NBS健康教室(11月、12月予定)
- ・NBSヌエックフェスティバル(7月予定)
- ・NBSウィンターコンサート(12月予定)

詳しくは(株)ヌエックベストサポートまでお問い合わせください。

宿泊棟

■利用時間

チェックイン 午後 15:00
チェックアウト 午前 10:00

宿泊室



洋室



和室



ミーティングルーム(A棟2F)

■利用定員 約50人 ■利用時間 9:00~24:00

種別	内容	A棟 (バス・トイレ付)	B棟 (トイレ付)	C棟 (トイレ付)	室数
洋室	1人用	38室	—	—	136室
	2人用	98室	28室	12室	
和室	2人用	2室	—	—	24室
	4~5人用	22室	14室	8室	
宿泊室合計		98室	42室	20室	160室

*PFIとは、Private Finance Initiative(プライベート・ファイナンス・イニシアティブ)のことである。NWECでは「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」に基づき、独立採算事業としての公共施設等運営権制度の活用及び施設・設備長期維持管理業務を民間事業者へ委託している。



実技研修棟

■利用時間

午前 9:00~12:30
午後 13:00~17:00
夜間 18:00~21:00



調理室 ■利用定員 約30人



音楽室 ■利用定員 約50人



美術・工芸室 ■利用定員 約30人



幼児室 ■利用定員 約20人

レストラン

■利用時間

朝食 7:00~ 8:30
昼食 11:30~13:45
夕食 18:00~20:00



各施設の利用時間、料金・備品等詳細については、PFI事業運営事業者 株式会社ヌエックベストサポートのホームページ<http://www.nwec-bs.jp>をご覧ください。電話での予約はTEL:0493-62-6723までお問い合わせください。

施設

研修棟

■利用時間

午前 9:00~12:00
午後 13:00~17:00
夜間 18:00~21:00



大会議室 ■利用定員 160人(傍聴席38を含む)



講堂 ■利用定員 602人



講堂エントランス前



中会議室 ■利用定員 40人



小会議室 ■利用定員 12人



マルチメディア研修室 ■利用定員 30人
(午前・午後のみ)



研修室 1~3F

研修室

研修室	室数
150人室	1
99人室	1
48人室	4
36人室	1
24人室	2
20人室	6

体育施設

■利用時間 (体育施設、日本家屋施設とも)

午前 9:00~12:00
午後 13:00~17:00
夜間 18:00~21:00



テニスコート

■全天候型
スパックサンドコート
2面



体育館

■バレーボール2面
■バドミントン3面
■フットサル1面

日本家屋施設



日本家屋「響書院」

茶道、華道、着付け、かるた、百人一首、作法教室など日本の伝統・芸術・文化に関する学習や交流に利用

■茶室 2部屋 (15畳、4.5畳)
■座敷 1部屋 (10畳)



茶室「和庵」

京都裏千家家元の今日庵の「又隠(ゆういん)」を模した本格的な茶室

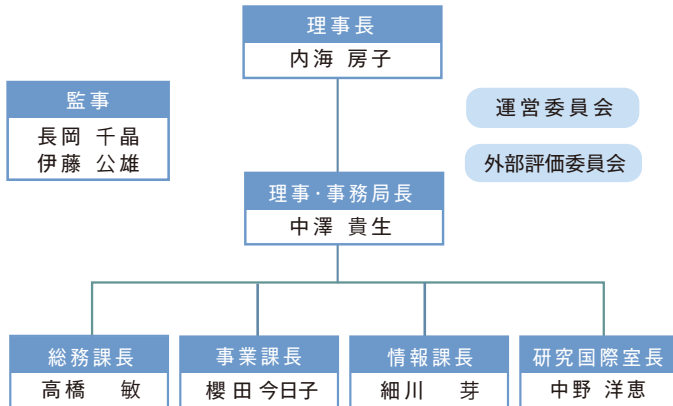
■茶室 (4.5畳)

響書院とセットでの貸出

組織・決算

平成29年7月1日現在

● 組織図



● 歴代館長・理事長

在任期間	職名	氏名
昭和52年7月1日 ~ 昭和57年7月9日	館長	縫田 暉子
昭和57年7月10日 ~ 昭和62年3月31日	館長	志熊 敦子
昭和62年4月1日 ~ 平成7年3月17日	館長	前田 瑞枝
平成7年4月1日 ~ 平成13年3月31日	館長	大野 曜
平成13年4月1日 ~ 平成16年3月31日	理事長	大野 曜
平成16年4月1日 ~ 平成23年6月30日	理事長	神田 道子
平成23年7月1日 ~ 現在	理事長	内海 房子



● 運営委員会委員

氏名	現職
岩熊 眞起	特定非営利活動法人 女性技術士の会 前理事長
大竹美登利	東京学芸大学 名誉教授
柿沼トミ子	全国地域婦人団体連絡協議会 会長
久留島典子	東京大学 副学長(大学執行役)
渋澤 幸	埼玉県男女共同参画推進センター 所長
高岡 信也	独立行政法人教職員支援機構 理事長
高田 直芳	埼玉県立浦和第一女子高等学校 校長
多賀 太	関西大学 文学部 教授
高松 和子	公益財団法人21世紀職業財団 業務執行理事・事務局長
武石恵美子	法政大学 キャリアデザイン学部 教授
中川 荘一郎	株式会社 高島屋サービス 取締役総務部長
根岸 茂文	一般社団法人 埼玉県経営者協会 専務理事
福田 公子	首都大学東京大学院 理工学研究科 准教授
實生 律子	国際婦人年連絡会 世話人
村松 泰子	公益財団法人 日本女性学習財団 理事長
山田 昌弘	中央大学 文学部 教授

● 外部評価委員会委員

氏名	現職
犬塚 協太	静岡県立大学 国際関係学部 教授 /同 大学 男女共同参画推進センター長
齋藤 悦子	お茶の水女子大学大学院 基幹研究院 人間科学系 准教授
笹井 宏益	玉川大学 学術研究所 教授
長田 三紀	全国地域婦人団体連絡協議会 事務局長
萩原 貴子	株式会社 グリーンハウス 執行役員

● 決算

(平成27年度、単位:百万円)

収入		支出	
運営交付金	540	業務経費	311
入場料等収入	66	一般管理費	315
その他	11	その他	10
合計	617	合計	637

※百万円未満を四捨五入しているため、合計と一致しない。

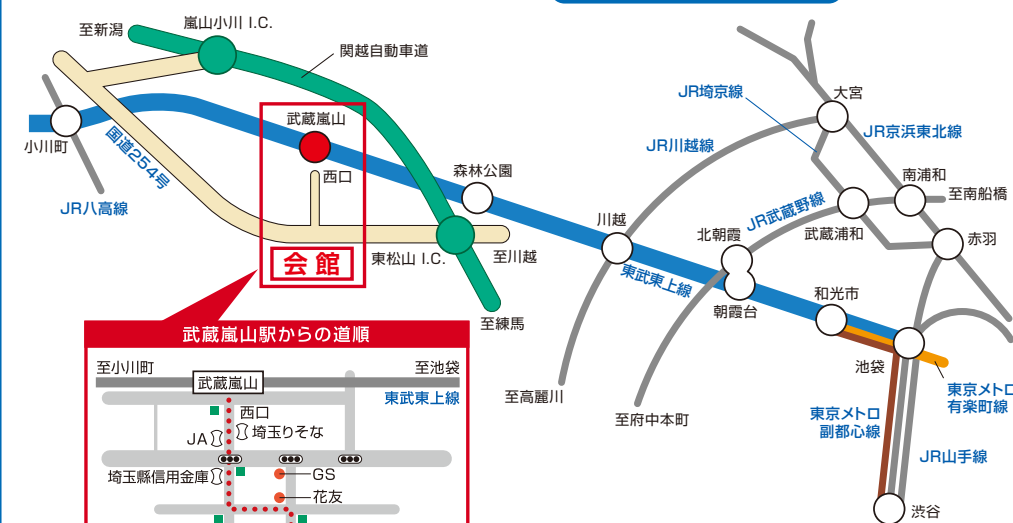
国立女性教育会館ボランティア

NWECは、ボランティアを事業運営における大切なパートナーとして受け入れ、ボランティア自身の多様な生涯学習を促進する場を提供している。

① 情報提供及び交流	連絡会議(年3回)を実施するとともに、会館内にボランティアルームを設置し、会館とボランティア、またボランティア相互の連絡・交流を図っている。
② 研修活動	ボランティアと会館がともに学ぶための研修事業として「ボランティア活動研究会」(年1回)を実施している。 また、全国から多数の参加者が集う「男女共同参画推進フォーラム」をボランティア活動に必要な基礎的な研修として位置づけている。
③ 自主活動	ボランティアの自主的なグループの活動・提案を受け入れ、会館はそれをバックアップしている。



交通のご案内



電車では

会館最寄駅、武蔵嵐山駅は池袋駅から東武東上線下り急行に乗り約60分、徒歩約12分。

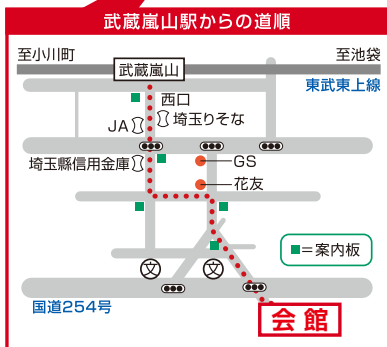
■タクシー利用の場合
武蔵嵐山駅から約5分。
森林公園駅、小川町駅から約15分。

※東京メトロ有楽町線・副都心線と光市駅から東武東上線に乗り換えることができます。また、相互乗り入れも行っています。

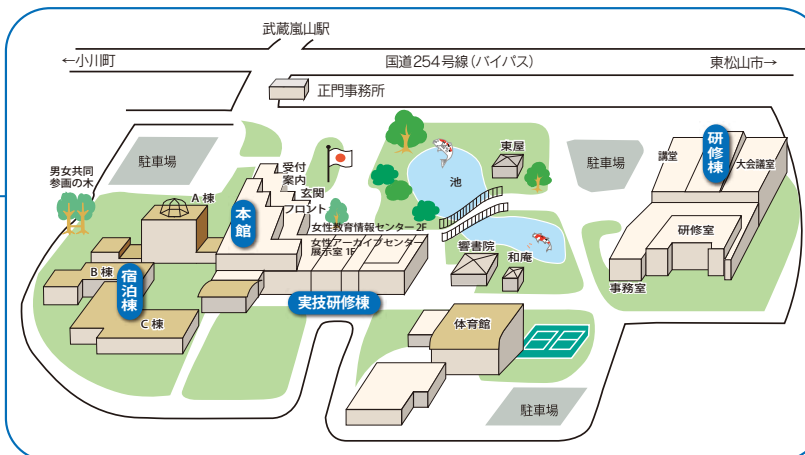


自動車では

関越自動車道練馬I.C.からの場合、東松山I.C.(所要時間約35分)で降り、国道254号線を西に15分、新潟方面からは嵐山小川I.C.で降り、国道254号線を東に15分。



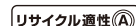
女性アーカイブセンター展示室



独立行政法人 国立女性教育会館
National Women's Education Center

NWEC 〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728 番地 TEL 0493-62-6719

web: <https://www.nwec.jp>
facebook: <https://www.facebook.com/NWECJapan>
E-mail: webmaster@nwec.jp



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。